

那覇港だより

な は みなと

令和3年（2021年）2月 第21号

目 次

那覇港総合物流センターの開業後の効果と今後の取組について 1

トピックス

那覇港外貿貨物増大に向けた取り組みについて 4

那覇港の外貿貨物増大に向けた荷主対象の取組について 4

第2クルーズバース、背後の埋立について 4

那覇港管理組合議会の新たな顔ぶれ 5

職場献血の実施について 5

那覇港総合物流センターの開業後の効果と今後の取組について



1. 背景

那覇港管理組合では、集貨・創貨を促進することによる取扱貨物の増加を目指し、物流の高度化※¹を図るとともに、新たな価値を生み出す付加価値型産業※²の集積を図ることを目的として「那覇港総合物流センター」（以下、「NPLC※³」という。）を整備しました。NPLCの管理運営については、PFI法に基づく維持管理・運営型による事業スキームとなっており、那覇港管理組合は施設を所有したうえで、公有財産貸付契約に基づきSPC※⁴に貸し付けています。また、当該地域は国際物流拠点産業集積地域であるため、税の優遇制度等を利用することが可能であり、NPLCの入居テナント企業も活用しています。令和元年5月に開業から1年9ヶ月を経過し、開業後の効果や今後の取り組みについて紹介します。



位置図

テナント企業

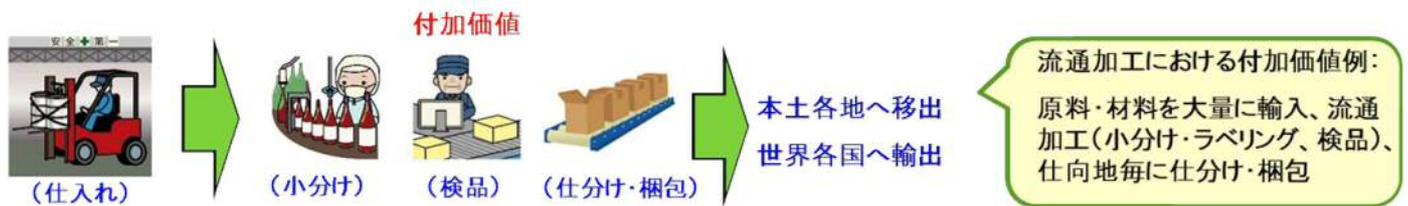


事業スキーム

※¹ 物流の高度化とは、以下イメージ図のように、海外から製品等を輸入し、NPLCで保管や検査、仕分け、混載を行い本土各地へ移出あるいは県内小売店舗へ配送する等、物流を効率化させることをいいます。



※2付加価値型産業とは、以下イメージ図のように、仕入れた原料等を輸入し流通加工を行う産業をいいます。



※3 Naha Port Logistics Center の略称。

※4 Special Purpose Company の略称。特別目的会社（(株) 那覇港総合物流センター）のこと。

2. 開業後の効果

NPLCの集貨状況としては、令和元年度の集貨計画貨物量77,910トンに対し、実績値は91,789トンとなっており、計画に対して約118%の達成状況となっています。NPLCでは、さらなる取扱貨物量の増加を目指す中、ここではNPLCの物流機能の中から特徴的なものについて紹介します。

【効果①】 離島産黒糖やマグロを高品質に長期保存することが可能となりました。

これまで離島から移入（陸揚げ）された黒糖はドライ倉庫で保管しており、長期保存ができなため、安定供給できず取引先の開拓が課題となっていました。NPLCの恒温恒湿庫で長期保管が可能となり、生産量の増減を恒温恒湿庫で調整し安定供給ができるようになりました。



恒温恒湿庫

沖縄近海マグロは、県内消費又は、通常冷凍 -25° で移出・輸出をしていましたが、 -60° の超低温庫と超低温コンテナによる超冷凍コールドチェーン^{※5}により、出荷時期を調整しながら消費者まで品質を確保して移出・輸出が可能になりました。



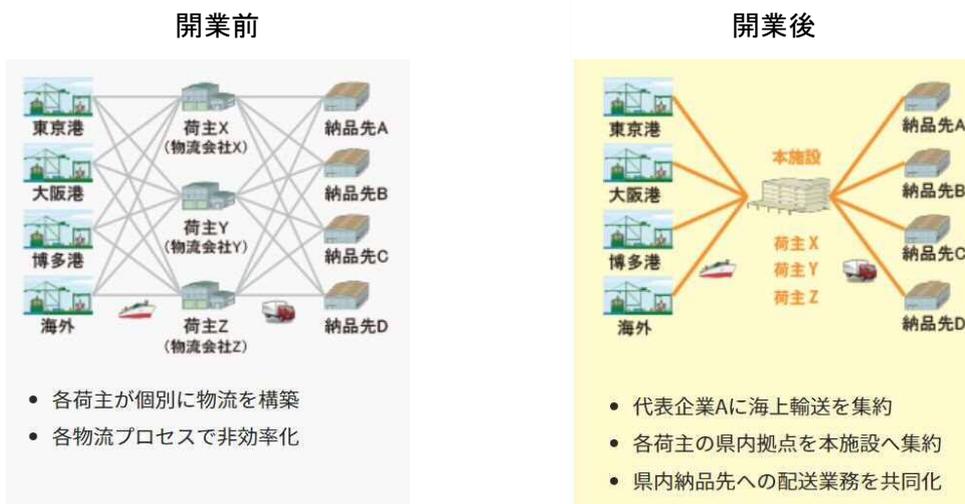
急速凍結庫



超低温庫

【効果②】先島向け生鮮食品の県外への輸送日数が短縮されました。

これまで県外から那覇港に輸移入（陸揚げ）した生鮮食品を先島向けに船積みして移出する場合、大規模な物流施設が無かったため、一旦那覇市外の複数の物流施設に搬入し、仕向地毎に仕分けていたため、陸揚げから船積みまで2日間の輸送日数を要していましたが、N P L C開業後は輸移入した生鮮食品をN P L Cにまとめて搬入し、仕向地毎に仕分けるため、那覇市外の複数の物流施設への搬入が省略され、輸送日数が1日に短縮し、離島で店頭と並ぶ生鮮食品は1日早く届くようになりますとともに、物流コストの低減にも繋がりました。



イメージ図

※5 コールドチェーンとは生産・輸送・消費の過程で途切れることなく低温に保つ物流方式のこと。

3. 今後の取り組みについて

上記2に記載のとおり、N P L Cの取扱貨物量は集貨計画貨物量を達成し、物流の高度化に関する効果が現れはじめており、今後も県外への移出や国外への輸出貨物量の増加や物流コストの低減に向けて、運営事業者であるS P Cの取組を推進するとともに、国内船社・荷主や那覇港国際コンテナターミナルとの連携を強化し、目標達成に向けて取り組んでいきます。

那覇港外貿貨物増大に向けた取り組みについて



外貿貨物の増大に向けた検討業務で事業者ヒアリングなど具体的な調査に着手しています。また、新港ふ頭・公共国際コンテナターミナル（CT）の多様な活用方法における課題抽出、効果検証のため、RORO船の実証実験を9月からスタート（R3. 2月迄）しています。

那覇港の外貿貨物増大に向けた荷主対象の取組について



令和2年9月から令和3年3月までの期間、実証実験を実施しています。輸出貨物を対象に荷主に対して補助を行うとともに、コストやリードタイム等を検証し、物流コストの低減等の検討を行います。

8月3日より受付、9月1日から実証実験を開始し、12月末時点で21社が参加しています。

第2クルーズバース、背後の埋立について



実施状況（2021.1.13 撮影）

第2クルーズバース背後のバス及びタクシー駐車場等の関連施設整備を行っております。

現在、護岸工事が令和2年11月に完成し、令和3年2月から埋立土砂の搬入を行っております。



那覇港国際クルーズ拠点計画

那覇港管理組合議会の新たな顔ぶれ

那覇港管理組合議会は、沖縄県議会から5人、那覇市議会から3人、浦添市議会から2人の議員がそれぞれの議会で選出され、那覇港管理組合議会議員となっております。

令和2年6月7日に行われた、沖縄県議会議員一般選挙にともない、沖縄県議会選出の5議員が入れ替わり、翁長雄治議員、当山勝利議員、仲村家治議員、比嘉瑞己議員、島尻忠明議員が当組合議会議員に選出されました。

新たに選出された議員より、議長には島尻忠明議員、議会運営委員会副委員長には仲村家治議員が就任されました。

那覇港地方港湾審議会委員として、比嘉瑞己議員を推薦することが決定されました。

職場献血の実施について

新型コロナウイルス感染拡大に伴いまして、全国で献血への協力者が減少し、沖縄県においても深刻な状況であると報道がなされております。

那覇港管理組合としましては、沖縄県赤十字献血センターへ職場献血の実施を申し入れたところ、令和2年5月28日に当組合へ献血バスを配置していただき、当組合職員、また那覇ふ頭船客待合所入居の企業の方々の協力もいただいて、目標人数40人に対しまして41人の献血を行うことができました。



那覇港だよりに関するお問い合わせやご意見、情報の送り先

那覇港管理組合総務部総務課

〒900-0035 那覇市通堂町2番1号（那覇ふ頭船客待合所3階）

TEL:098-868-2578 FAX:098-868-2629

e-mail: kumiai@nahaport.jp